

山口日独協会ニュース

Neuigkeiten der Japanisch-Deutschen
Gesellschaft Yamaguchi

Nr. 1 3 7, November 2018

山口日独協会 〒753-0083 山口市後河原94

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yamaguchi:

Ushirogawara 94, Yamaguchi, 7530083, JAPAN

TEL/FAX : 083-920-2965

<http://www.jdg-yamaguchi.jp/> info@jdg-yamaguchi.jp

協会からのお知らせ

1 行事のご案内

(1) クリスマス会 (Weihnachtsfest) 開催のご案内

山口日独協会の定例行事、クリスマス会を開催します。参加者は、料理一品持ち寄りをお願いします。料理の種類は問いません。ゲーム等楽しい企画、おみやげが盛りだくさんです。エムデ会長のドイツソーセージ造りも有ります。ソーセージを作りたい方は、12時30分から行いますので、ご参加ください。ドイツワイン・ゼクト、ソフトドリンクを各種揃えています。

参加される方は12月6日までに、各理事か上原理事長までお知らせ下さい。

- ・日 時 : 2018年12月8日(土) 15時~18時
- ・会 場 : 山口市大殿地域交流センター(山口市大殿大路120-4)
- ・会 費 : 会員無料、会員外500円

(2) 「ドイツ歌曲の夕べ」

- ・日時 : 2018年12月24日(月・祝) 17時00分開演/16時30分開場
- ・場所 : ポルシェセンター山口ショールーム (山口日産自動車株内)
(山口市大内千坊六丁目2番1号、TEL:083-922-1911)
全席自由 : ¥1,000(当日¥200増し)

・主催 : 山口日独協会 ・協賛 : (株)松永ピアノ ・後援 : 山口EU協会

・内容 : <曲 目>

① フランツ・シューベルト Franz Schubert

ガニュメート D544、月に寄せて D296、野ばら D 257、音楽に寄せて D547 他

② リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss

ひそやかな誘い、万霊節、ツェツィーリエ 他

③ フーゴ・ヴォルフ Hugo Wolf 郷愁、メーリケ歌曲集より 他

バリトン白岩洵さん、ピアノ西村優さんです。ピアニストの西村優さんは、宇部市ご出身、ミュンヘン在住です。ご両親は、山口日独協会会員の西村博巳さん、富江さんです。お二人のプロフィール等詳細は、同封のチラシをご覧ください。

クリスマスイブの夕、ドイツリートをお楽しみください。

*チケットはプレイガイドか、上原理事長にご連絡下さい。

(3) ドイツ語講座～後期を開講しています。日程は以下のとおり、半年で10回行います。

①「はじめてのドイツ語」(初級者向け) 講師: 渡辺アンゲリカ先生

隔週土曜日 19時～20時30分 12月以下未定

場所: 山口市大殿地域交流センター

②「ドイツ語サロン」(中級者以上) 講師: エムデ・アンゲリカ先生

隔週月曜日 19時～20時30分 11月26日(月)、以下未定

場所: 山口市宮野地域交流センター

*受講料: 半期10回で、会員;8,000円・一般;10,000円

*お問合せ: 理事尾崎馨さん(080-1948-2390/ozaki-js@c-able.ne.jp)へお願いします。

2 行事のご報告

Deutsches Fest(ドイツ祭)

アートフル山口に併せて10月7日(日)開催しました。雨が少しふりましたが、お客様にドイツの情報や食文化を楽しんでいただきました。



3 会員の皆さんからの投稿、情報提供

(1) 「ドイツツアー紀行」

7月31日から8月7日に実施したドイツツアー紀行を次ページ以下に掲載しています。

2回目の今回は、伊藤敬・文子ご夫妻「二回目のドイツ」、尾崎馨氏「モーゼル川はゆるやかに」です。次号も続きます。

(2) 「第九コンサート」 <チラシを同封>

日時: 12月22日(土) 13時30分開場、14時開演

場所: 周南市文化会館大ホール

内容: 1部～合唱、エレクトーン独奏、ピアノ&エレクトーン演奏

2部～ ベートーヴェン:交響曲第9番第4楽章「歓喜の歌」

二回目のドイツ

伊藤 敬・文子

2015年夏から3年ぶりに再び山口日独協会主催のドイツ・ルクセンブルク旅行に参加できる機会を得ました。前回はマイン川、今回はモーゼル川流域でまた違った趣がありました。この度の旅行での楽しみひとつは、ステンドグラスに描かれたシャガールの絵を鑑賞できることでした。

マインツにあるザンクトシュテファン教会の聖堂のステンドグラスに描かれたシャガールの絵は青を基調とした素晴らしいものでした。聖堂に入るとパイプオルガンからバッハの曲が流れ、雰囲気醸し出し一層ステンドグラスを引き立てます。ここでシャガールは作品に打ち込んだのだろうかあとの思いに馳せました。マインツに一泊し翌日トリアーを訪れ、ここで三連泊。ここを拠点にモーゼル川遊び、美しい建物があるベルンカステルを散策し、SMW社見学、ワイン試飲会に行きました。最高品質を誇るワインとともに、昔ながらの伝統的なワイン作りをされており頭が下がりました。ゼクトは本当においしくいただきました。翌日にはセバスティアーニ醸造所メーリンガー畑を歩き、ぶどう畑の眼下にはモーゼル川がたっぷりと水を湛え、東西の住宅街の間をゆっくりと流れている光景は素晴らしいものでした。足元にはひとあし先に実ったと思われる蒼いブドウがなっており自然の中にワインの香りが漂うような気分になったものです。

オーレヴィッヒワイン祭りでは、バンド演奏のなか、酔いも手伝い自己流の踊りを披露？遠き日本から彩りを添えました。ケーニッヒヨハン醸造所での見学、試飲も楽しいひと時でした。NHKラジオ番組の毎日ドイツ語4月号に掲載されている「ぶどう畑のマリー」でも紹介されています。ここにいる犬の名前はテキストにあるマリーではなかったけれど、物をなげると、加えて持ってくるなど、愛くるしい犬で、ワイン試飲の合間をひとしきり楽しませてくれました。



5日目は今回初めて訪れるルクセンブルク。トリアーから電車で1時間のところにあります。人口50万足らずで、世界で一番裕福な王国といわれており、近辺ドイツからも豊かな賃金を求めて通勤しているようです。さすがに駅構内の天井には壁画が描かれており、豊かさを象徴するかのようでした。当日の電光掲示板には温度40°Cと表示され、私たち二人は徒歩での観光は避け、大聖堂のなかをゆっくりとみてまわり、マインツのステファン教会の聖堂とまた違ったステンドグラスに感銘しました。6日目はドイツ協会の山根さんのご配慮でトリアーからフランクフルトまでレンタカーでアウトバーンを走りました。思わぬ経験をし、また本当に助かりました。



このたびの旅行は非常に暑く、エアコンもないホテルでの宿泊は参りましたが、こうしてペンを走らせている今（10月下旬）は朝夕寒い時候となり、あの暑かったドイツがなつかしく、行ってよかったと思っている次第です。

また御同行した皆様のサポートのおかげで楽しく旅行できましたこと、感謝に耐えません。心からこの紙上を借りてお礼申し上げます。





▲メーリンガー村のセバステアーン二さんを訪問しました

モーゼル川はゆるやかに

尾崎 馨

7月31日から8月7日までの8日間、ドイツのモーゼル川流域を旅行しました。日独協会の皆さん7人と宇部空港から羽田経由、フランクフルト空港へ到着すると、先に訪独されていた会員の方3人に出迎えていただきました。電車で約30分、ライン川とメイン川の合流地点にあるマインツまで移動しましたが、すでに夕刻となっていました。中央駅の目の前にあるケーニヒスホーフというホテルにチェックインを済ませると、旅の初日は終わりです。

マインツは人口20万人の都市で山口市と同じぐらいですが、やたら面積ばかり広い山口とは違い都市としての集積度ははるかに高いようです。次の日、ホテルから徒歩20分余りのところにある聖シュテファン教会ではシャガール作のステンドグラスを見ることができました。深いブルーの色がとても神秘的で、印象的な作品は古い教会とよくマッチしています。

とても暑い日でした。噴水の周りでは子どもたちが水浴びをし、街角ではクラシック音楽を演奏している人にも出会いました。演奏に聞きほれていたら、みんなの姿が見当たりません。急いで追いかけていったのですが……。トリーア行の電車は発車時刻が近づいています。さあ、困った。そこで通りがかりの人に尋ねると、駅とは反対の方向に来てしまったようです。タクシー乗り場を教えてもらってギリギリ間に合いました。みんなは待ちぼうけです。

トリーアの人口は11万人で、街のサイズもコンパクト。同市のホテル ドイツチャーホーフに4泊し、ここを拠点にモーゼル川流域の旅に出かけました。同ホテルでは新たに5人が合流、ワイン醸造所SMW社のシュミット会長の出迎えもあり、再会を祝してゼクトで乾杯。夜は、近くのレストランの屋外テラス席で世界三大料理の一つトルコ料理を堪能しました。

トリーア2日目、バスをチャーターしてベルンカステル・コースまで足を延ばしました。

この街から出ているモーゼル川クルーズを楽しみました。涼しい川風に吹かれ、両岸の斜面に広がるブドウ畑や山の上に建つ中世の古城を眺めながら1時間の船旅です。ベルンカステルの街を散策。石畳の道の両側に建つ木組みの街並みは、中世の時代へとタイムスリップしたようでした。夕方からはSMW社の醸造所を見学の後、ワインの試飲に皆さん満足です。

トリーア3日目、バスをチャーターしてモーゼル川沿いのメーリングー村を訪ねました。暑い中、ほとんどの人はブドウ畑の間を歩いて、汗をかきかき丘の中腹まで。私はズルをしてバスで。セバスティアーニさんの造ったワインを試飲し、奥さん手作りの郷土料理を味わいました。同氏は私と同年。しかも誕生日も同じ9月です。「近頃の若いもんはタトゥーを入れてからに」と嘆いていたのが印象的でした。

この後、もう1か所でワインを試飲。今回の旅行では20銘柄以上のワインを飲んだこととなります。味の違いは分かったような、分からないような……。夜はトリーア市内のワイン祭りに参加。なぜかビールで乾杯しベルリン名物のカリーブルストを美味しくいただきました。祭りは大勢の人びとでごった返し、地元のバンドが生演奏。80年代に流行ったシンディー・ローパーの「Time after time」をここドイツで聞くことになろうとは。

トリーア4日目、約40キロ西のルクセンブルクへ電車の旅。ここは、ドイツ、フランス、ベルギーの3か国に囲まれた大公国です。面積は山口県の半分にも満たない国ですが、同国1人当たりのGDPは、世界一位の高水準でとても裕福な国です。このため、周囲の国から通勤して来る人もいるほどです。トラックドライバーの月給はドイツに比べ8万円多いとか。訪れた日、大公の宮殿に国旗が掲揚されていなかったのが、大公はお留守でした。

今回のツアーは、トリーアに4泊しましたが、10時ごろに出かけるというスタイルでとてもゆったりしたものです。私はといえば、朝食後7時ごろから9時過ぎまで市内のあちこちを散策しました。トリーアは、紀元前に建設されたドイツ最古の都市で、古代ローマ帝国時代の遺跡が世界遺産として保存されています。かつての入場門であったポルタ・ニグラ（2世紀）、カイザー・テルメン（4世紀の皇帝大浴場跡）など。どちらも今、修復中でした。

賛否はあるでしょうが19世紀から20世紀の歴史に大きな影響を与えたカール・マルクスはこの街で生まれました。今年にはマルクス生誕200年に当たり、トリーアでは記念イベントが目白押しです。額面0ユーロの記念紙幣は即完売し、記念ワインの販売なども行われています。また、中国政府からは銅像が寄贈され、ポルタ・ニグラの近くに建っています。ちなみにマルクスの生家はユーロショップ（日本でいう百円ショップ）になっていました。育った家はマルクス博物館になっています。

最後に今回のドイツ旅行でいちばん驚いたことです。帰国の前日、トリーアからフランクフルトへ向かうアウトバーンのサービスエリアでのことです。変な話して恐縮、変な話して恐縮ですが、ここのトイレは、便座が回転を始め、自動的に便座を消毒するのです。日本ではありえないことです。



▲カイザーテルメンはホテルから約200mの近さでした